



声をなくしたことり

～小さな勇気のものがたり～



森の奥に、ピピという小さなことりがいました。

ピピは歌うことが大好きでした。



でも、ピピには困っていることがありました。

他の鳥たちの前だと、声が出なくなってしまうのです。

mo

「ピピ、一緒に歌おうよ！」

「.....」

pi

ピピは口を開けても、**声が喉の奥で固まってしまい**
ます。



「どうして僕は、みんなの前だと歌えないんだろ

う...」

ひとりぼっちの夜、ピピは泣きました。

* * *



ある日、森に**年老いたふくろう**がやってきました。

「おや、泣いているのかい？」

pi

「僕、みんなの前だと声が出ないんです...」

fu

「ほう。それは**声**をなくしたのではないよ」



「お前さんは、勇気を眠らせているだけじゃ」

ふくろうは静かに言いました。

fu

「完璧に歌おうとしなくていい。
最初の一音だけ出してごらん」

「最初の...一音...?」

* * *



次の朝、仲間たちが集まりました。

「今日も一緒に歌おう！」



ピピの心臓がドキドキします。

でも、ふくろうの言葉を思い出しました。

「最初の一音だけ...」

ピピは目を閉じて、
小さく息を吸いました。

「ピ...」



小さな、小さな声。

でも、確かに声が出ました。

mo

「ピピ！聞こえたよ！」

ri

「もっと聞かせて！」



ピピは気づきました。

完璧じゃなくても、伝わるんだ。

それから、ピピは少しずつ歌えるようになります
た。

まだ緊張するけれど、
「最初の一音」を出す勇気があれば大丈夫。

この物語から：

完璧を目指さなくていい。

小さな一歩を踏み出す勇気が、すべてを変える。

おしまい



今日、あなたの「最初の一音」は何ですか？

- 声をなくしたことり -